

長久手市行政評価票 (A票：事業評価票)

事業番号	28	事業名	文化の家企画事業	担当部課	くらし文化部文化の家
基本情報	第6次総合計画・基本目標	5 いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪		決算書ページ	—
	行政改革指針・重点課題	7 市民参加の仕組みづくり		会計区分	一般会計
	法定受託事務の有無	無		予算区分(款 - 項 - 目)	
	その他(関係計画、要綱等)	有 ながくて未来図(長久手市第6次総合計画)(H31.3)、文化芸術マスタープラン(H30.3)		9-4-5 文化の家施設費	
	事業開始の背景、経緯等	長久手市は、歴史の中で培われ継承・発展してきた風土や伝統文化を持ち、周辺を含め大学が多数存在し、地域には学生や芸術家、専門家が多数在住している。このような地域の特性と市民一人ひとりの個性を活かしつつ、たくさんの方が協力して新たな魅力ある文化芸術の創造を図る。また、豊かな地域社会が織りなす質の高い生活空間を創出することによって、真に市民がゆとりと潤いに満ち、生き生きと誇りを持っている市を目指す。(両者と協働不可の場合はその理由)			
市民・民間事業者との連携協働の可能性	両者と協働可				

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 市の文化芸術政策の基本理念『ともに創る きらめく長久手』を実現するために、3つの基本方針のもと、6つの事業に取り組む。事業については、重点的な5つの施策を定め、今計画期間において特に力を入れて取り組む。これらの取り組みを基礎にして、さまざまな分野に文化芸術を活用していく。
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民、近隣住民等(事業参加者数)
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 「暮らしが楽しい地域・環境の創出」「地域の活力の向上」「主体的なまちづくりの担い手の育成」「経済の活性化」などを實現、市民が地域に愛着と誇りを持ち、快適で魅力と活力あるまちづくり

項目	単位	区分	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
			(2017)	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)
事業費(A)	千円	予算	42,688	44,363	44,020	40,288	35,431
		決算	40,751	41,352	33,091	21,925	
人件費(B)	千円	決算	51,935	44,117	37,018	27,600	
総コスト(C)=(A+B)	千円	決算	92,686	85,469	70,109	49,525	
事業対象の数(D) (R3年度は想定数)	人		386,936	499,284	458,006	180,951	300,000
対象あたりコスト(C/D)の 過去3年平均値	千円		0	0	0	0	

成果指標 (事業の意図を反映する指標)	単位	区分	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
			(2017)	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)
新聞等への掲載数	回	目標	50	50	50	50	50
		実績	29	37	52	44	
(指標の設定根拠)			(数値目標の根拠)				
新聞等へ掲載されることは、広域への周知のみならず、社会的インパクトを客観的に捉えるエビデンスとなるため。			・公演数や内容を鑑みて ・過去の実績の平均値より				
(前年から指標を変更した場合はその理由)							
(前年までの指標)							

これまでの振り返り	目標達成状況・分析コメント	(成果指標等の目標に対する達成状況・分析状況や進捗状況など) コロナ禍の影響で公演数は減ったが、新聞の掲載数は昨年度を上回った。感染対策やオンラインへの取り組みなど昨今ならではのトピックが多く取り上げられた。
	活動エピソード	(活動のエピソード、コメント、特記事項など) コロナ禍でのいち早い取り組みがマスコミの注目の要因となった。他の自治体に先駆けた取り組みも多く、これらが広く周知された意義は大きい。
	改善ポイント	(改善が必要なこと、改善の方法など) 感染症対策などに追われて発信の機会を失った事業も多く、福祉事業へのアプローチなど、さらに特色ある事業を積極的に発信していきたい。

事業を構成する 事務事業①	事務事業④	市民企画支援事業							
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)		単位	区分	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)
	(1)	市民参加の延べ人数	人	見込	10	10	10	10	10
				実績	10				
	(2)	【アクションプラン】 事業数	事業	見込	2	2	3	3	3
実績				1					
(3)			見込						
			実績						
<備考:活動の概要(R2年度(2020))> 市民企画を担うシネマ倶楽部は下半期より活動を開始し、吹奏楽フェスティバルは中止となった。市民活動への影響が顕著となった。								今後の方向性	拡充

事業を構成する 事務事業②	事務事業⑤	アートのまちフェスティバル事業							
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)		単位	区分	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)
	(1)	市民参加の延べ人数	人	見込	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000
				実績	0				
	(2)	【アクションプラン】 アートのまちフェスティバル事業 来場者数【単年】	人	見込	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000
実績				0					
(3)			見込						
			実績						
<備考:活動の概要(R2年度(2020))> コロナ禍の影響で、ながくてアートフェスティバルは中止となり、展示会は創造スタッフによる「創造博」に留まった。								今後の方向性	拡充

事業を構成する 事務事業③	事務事業⑥	企画展示事業							
	活動指標 (事務事業の具体的な活動の指標)		単位	区分	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)
	(1)	市民参加の延べ人数	人	見込	300	300	350	350	400
				実績	297				
	(2)	絵画コンクール(一般の部)入場者	人	見込	600	600	650	650	700
実績				515					
(3)	創造スタッフ展入場者	人	見込	500	500	500	500	500	
			実績	475					
<備考:活動の概要(R2年度(2020))> 今年度よりアートフェスティバルが別科目に分かれたため、新たに絵画コンクールと創造スタッフ展を活動指標として取り上げる。コロナの影響にもかかわらず例年並みの入場者があった。								今後の方向性	拡充

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) コロナ禍による影響で多くの事業が中止・延期となった。すべての事業において感染症対策は必須事項となり、ソーシャルディスタンスによる入場者数制限は乗客や回収率に大きく影響した。今後は補助金や助成金による補填を得て、公共施設として開かれた劇場を目指しつつ、市民や利用者にとって安心して来館できる環境づくりを図っていきたい。
	中長期の目標	(いづれまでに事業をどのような状態にしたいか) 従来のような事業を開催できる状況になるまでに、ここ数年はオンラインを活用した事業や安全対策の徹底を行う。また、コロナ禍で疲弊した人々の心に潤いを与えることができるよう、開かれた劇場、交流の機会の提供、積極的な発信を行っていく。

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・特定財源や事業収入の確保に努め、市の負担部分の軽減を図ってください。 ・事業実施にあたっては、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえるとともに、長久手市みんなで作るまち条例の趣旨に沿ったものとなるよう留意してください。 ・行政改革の重要課題事業に基づき、講座の統廃合を含む整理に寄与できるよう取り組んでください。
	内部意見への回答	